



特別
A13
4453
2



A13
4453
2

古今武士形氣卷第二

目録

一 形見五式尺三寸

二 傘持くわりの事

中井勝孫母親書並神くわりの事
行屋源合非人の時枕の事
筑後前柳川歌りの事

長坂小偏書行の世の事
松原屋の事
出の男命の事

神原圖書記



二十

十目

三

愛媛の月代

十

氣乃能の登乃あき乃
あふあふの菊れ紋捲籠乃
是世念高乃のりよる乃

四

東乃伽羅振

九二目

去乃野の同志いの
伊子れ種指より路の
魂の神よ入るのいの



秋尺の式尺三寸

世小を別は能程のりよる又出来海とて抱ぞう。又次
あくと世男親世とらるとけりめと。とる資とるれり。
捨つりの及在らへ中。母のりよる。捨つ十三葉
よちり附び封ト目と切て。是とるるべーとよちわり。
洞よ包と紙とらと。内則とらに父香妻とららし。
竹下郎のあき海つ。台村安妙と若と若。鏡後の玉柳川
の多ふ小力とあ。孝向の鬼業師と忍せ無一。あ中
軍の捲籠して後世と。あ細よまのあ。女の力あ
がら。あやとらげぬあ。とらひ抱う。甲斐もな
あ果あ時のあ念と。あ成人のほびあなと。あくあ
とせ。ああ。の後のあ母に。あらと。あされ。あつて。



一 幸。越後村にふり越えを過ぎたての湖より水は
 小なり。片雲が沈み死に候へども是をえりてくはひありて
 のある月の末より賑と懐ひ。昔も亦もくも生
 とれどもちろごとく下人の涙の者もてえりる人
 の因果もあまぬその也。あまの命ひの何なりと
 て何ゆかはならず。千和が玉也。穽威が角と拍
 こしきとちりられ。力の持るもりもあつる若れ情ま
 是二交生國南にむりたり。かりも子細もあま
 ち六おもそあされも。面鏡もだりり。ねふわ
 りるなり。さそい自れは。交の水と糸のえなり。と
 肉餅屋煙管屋立を伏見よ言ひ。そと縁人
 ちろくこまると。程かくん。人への。とて。どり

ねふ入して。涙も。それといはせ。あはれと。涙も
 あまそのら。入いと。まらるる。縁人よ。つぎは。う
 りふ。ちと。わつて。あり。ちと。あつ。是のう。く。川。水。面。の
 此人に。ま。然。あ。係。女。あ。り。と。ね。の。多。れ。は。も。ん。は。根
 の人い。ち。と。は。是。い。お。輪。の。二。右。目。振。る。れ。虎。頭。実。元
 此。指。と。り。者。と。や。と。り。管。と。青。の。片。び。う。の。内。よ。
 松。火。わ。り。て。髪。と。ひ。き。め。川。口。九。高。月。の。指。と。柳。が。け
 る。名。何。事。り。あ。つ。も。存。づ。と。り。む。指。系。の。柳。は。小
 か。ら。ら。い。お。と。い。さ。さ。も。ま。も。植。樂。へ。あ。り。て。も。情。の。富。ま
 ども。老。女。の。髪。と。わ。り。の。ひ。の。か。と。絶。れ。ん。指。系。の。あ
 門。お。い。え。は。け。一。指。子。の。肌。着。と。る。さ。さ。あ。ま。ん。て。て。ゆ
 くと。世。の。う。さ。り。の。も。川。水。れ。静。ま。り。て。人。も。寝。付

とつて。焼火は流し木と拾ひ集め。石居く大電と
け。茶酒等とあり。二夜代と丸倉惣の和とさ
か。天目とす。は拍子のさうて。管の舌は格敷
野の声に。さうて。う。づれ。名。と。漢。八。揚。名
杜。あ。花。房。し。さ。れ。す。れ。て。び。う。お。ま。の。磨。衣。今
の。衣。衣。と。大。笑。い。と。人。と。名。れ。て。源。公。な。り。播。磨。氏
足。て。も。う。に。和。方。乳。色。ハ。ナ。ク。奇。物。の。お。お。小。あ。何。う
と。P。播。磨。氏。と。か。く。我。は。善。悪。あ。ま。う。さ。う。又。云
番。歌。の。住。家。と。す。わ。執。後。踏。ま。で。あ。い。い。さ。身。を
足。が。う。あ。ゆ。り。討。ふ。あ。い。ま。だ。又。あ。う。り。も。後。な。ん
平。小。江。戸。浩。の。内。ま。が。に。は。執。公。の。う。い。か。う。け。な
さ。敷。通。に。あ。づ。り。と。は。下。も。大。敷。也。え。と。し。け。が。は。身

なれど。かりひ。あ。う。も。附。て。と。又。あ。い。ま。し。て。乃
う。ま。う。と。道。て。は。是。も。心。無。う。の。ひ。と。向。也。と。龍。一
あ。お。お。と。か。り。と。ゆ。と。と。ひ。ご。松。と。と。れ。む。け
内。の。う。り。と。さ。お。る。の。う。の。部。に。な。り。と。て。各。位。お
此。東。の。う。と。か。り。ひ。出。し。の。若。と。拂。ひ。十。府。の。ま。か
こ。と。七。ぬ。ふ。は。君。の。水。夜。姿。と。ん。て。着。し。む。と。な。ら。び
秋。の。富。士。小。横。の。ま。と。と。黒。首。の。後。も。つ。げ。と。
る。濃。と。と。人。魚。も。な。る。て。わ。ぬ。お。れ。と。な。り。附。ち。ぶ
ま。う。か。ま。と。と。り。は。必。杖。杖。刀。お。わ。り。是。大。系。の。美
盛。武。人。三。寸。は。身。に。あ。て。し。一。條。い。と。な。さ。ぬ。心。入。た。の
と。と。と。色。く。け。力。ハ。先。祖。信。玄。に。あ。り。は。つ。れ。信
川。中。將。の。一。戦。に。も。若。い。と。せ。り。う。り。傳。へ。て。を。



是より、観念ととげと多し。勝縁よりせは、勝縁
 におよび、ぬらりて、遊舟安んずるに、對面何とべ
 し。それ迄の形見小とて、我が持幣と辨し、並に、
 小たの袂より一包。金子百枚ありと、花をこころ
 育目より、やとて、若く粧ひなり。是より、
 して、深衣と圓えり、かへりて、ぬらりと、
 十月六日の、魚舟、難波の、くれと、つとて、同十一日
 よ、舟より、切り、同十八日、小柳川より、わたりて、ひそ
 小里の、かり、宿、おひひく、の、商人より、力を、
 さぐり、そ、年と、書て、去の、野ハ、秋、葉、葉の、
 屋より、在、宅、き、く、ふ、ん、
 定り、
 七

たらのさなをかんぐ。南小谷川とせまへ。お橋ひよりの
のこゝ。浪思とらさうく。白旗のどく。はらう。さか
浪人傷のた終て。難也。八町。あこの。辻。臺。よ。あ。び
ぬ。わ。ち。時。係。女。家。に。さ。う。い。て。彼。お。橋。の。中。程。と。或。る
あ。ま。り。四。落。一。東。の。岸。小。つ。の。ご。捨。ら。る。水。紀。よ。櫓。權。と
は。然。然。然。然。と。う。さ。と。和。合。と。う。ら。小。あ。入。里。板
ろ。ん。ち。ひ。ら。び。踏。ま。づ。て。さ。浪。よ。志。の。ふ。ふ。ふ。ふ。半。月
な。が。う。あ。て。整。と。も。あ。て。と。あ。と。見。ゆ。り。ひ。め。な。れ
ども。男。と。ら。め。て。隠。れ。ぬ。既。よ。寅。の。上。別。と。か。の。時。費
か。會。と。四。入。東。あ。ら。り。若。舊。の。朝。よ。火。と。無。中。并。重。敷
が。歌。う。ら。周。若。橋。赤。な。り。を。新。め。志。海。の。出。合。と。夜。若。に
ま。ま。は。込。歌。ふ。も。是。橋。さ。せ。て。う。ら。丸。お。不。な。り。首。入

の。急。進。て。扱。へ。ふ。入。と。向。事。と。義。門。と。ひ。く。と。武。町
中。も。あ。つ。時。一。村。た。い。ま。の。天。と。ひ。く。と。せ。の。ご。さ。と。整。く
小。進。か。ら。是。ま。で。と。向。中。と。扱。ひ。の。内。ら。ら。ら。り。腰
泳。の。さ。な。は。あ。と。い。ふ。お。ま。さ。う。遠。く。て。誰。人。と。い。ふ。浪。女。志
ま。さ。ら。先。是。へ。と。お。ま。の。せ。川。筋。よ。さ。う。あ。と。進。の
者。切。お。の。の。難。敷。数。百。人。是。非。なく。治。ま。り。て。評
美。と。り。く。也。亦。儀。傳。へ。よ。と。お。三。里。中。の。な。れ。て。腰
浪。と。い。ふ。お。も。眼。の。お。れ。つ。さ。な。姿。と。ん。合。し。こ。を。橋。と
浪。と。お。ま。へ。は。い。と。思。わ。い。一。た。事。の。内。に。お。ま。へ。下
向。あ。や。ら。と。會。と。い。ふ。す。け。橋。筋。が。仕。合。と。し。浪。女。う。ち。突
つ。て。懸。な。る。と。し。人。り。か。二。条。川。あ。り。て。お。れ。り。お。ま
り。日。と。あ。ら。い。新。為。よ。添。て。し。日。と。夜。常。の。朝。下。に。な。こ。

傘持てもぬらさず

浦の初崎浪わくく。武庫の風ちげしく久立
雲の之切さなり。又物置もあつさく。程切くあ
て来てなり人かもさぬ。罪後とありぬ。雲の雨
しり居崎への使志。垢越た近より人。生田の小舟の
板の木の陰も雨や。とりしてあらし。まのあけ十二
三。少く義少人。まて夏方。くお系傘と持て。けそ
事にくり。たを成。又。唐笠の雨。用よ。立へ。く。人
よ。わ。う。ぬ。は。志。を。出。さ。う。け。き。ざ。れ。ど。も。さ。わ。の
て。る。あ。け。わ。り。それ。持。た。う。く。も。力。あ。る。ぬ。ら。さ。ず
と。少。人。洞。紙。流。と。か。は。子。紐。を。く。く。流。さ。く。ぬ。ら
と。す。よ。系。し。い。長。坂。主。路。の。持。子。小。幡。と。も。持。た。り。

又浪人して甲州と川越を花よしのさくよ。船
中うそ病死。是。此。な。く。い。浦。里。よ。機。と。お。し。あ。の。人
の。情。あ。に。甲。斐。方。と。は。深。び。く。と。さ。の。川。ら。の。雲。の。長。竹
世。流。り。さ。り。さ。く。と。傘。の。細。工。を。な。れ。て。母。人。の。あ。り
て。男。の。と。を。あ。申。と。さ。く。を。我。力。あ。る。と。さ。く。と。天。の。と
り。わ。し。た。さ。り。く。く。さ。ん。く。と。さ。く。と。の。ふ。ざ。れ。を。賣。る。男
祖。母。子。の。あ。り。と。さ。く。と。其。賣。る。と。さ。く。と。の。さ。く。と。の。い。な
あ。べ。く。と。び。ん。入。と。の。い。と。母。の。信。り。里。と。人。分。て。と。病
ゆ。名。よ。ゆ。り。す。と。の。い。と。壱。城。と。さ。く。と。の。あ。け。の。機
嬢。の。次。も。小。幡。の。さ。く。と。の。い。と。の。物。持。り。わ。れ。ど。それ。つ
と。き。と。れ。の。作。せ。た。と。さ。く。と。の。い。と。小。幡。母。子。た。と。傘
車。と。さ。く。と。の。御。前。と。偶。ひ。と。向。き。と。さ。く。と。の。あ。け。の。機

まふよ久初月のおどろ 髪は髪をさくさく為さし
—— 芙蓉の臉をり 唇のこころの梅すかきけるん
ぞー 身よわたりれお尻ひふゆー 靴の友ありぬ
次は夜との数す年立けはぬわかれわかれけり
て我は金銭捨けし 作せられきともうたへけり
きとたしはば 威風凛々たるわらふ 衣履の裁ふわ
らびやのくまもおそらくいふと極さ誰人よても我を
無分は身に寄し金銭して浮世のおりひてふ念者
と抱ておももがりてわらうともせだすうー世さあ
そはー 身無よんねー 魚ととりわけー 綱目半
の神ぞ降りな——の教もわられさせしぬひは
うらら根あかりしむおほくわされてわらうみ言風俗

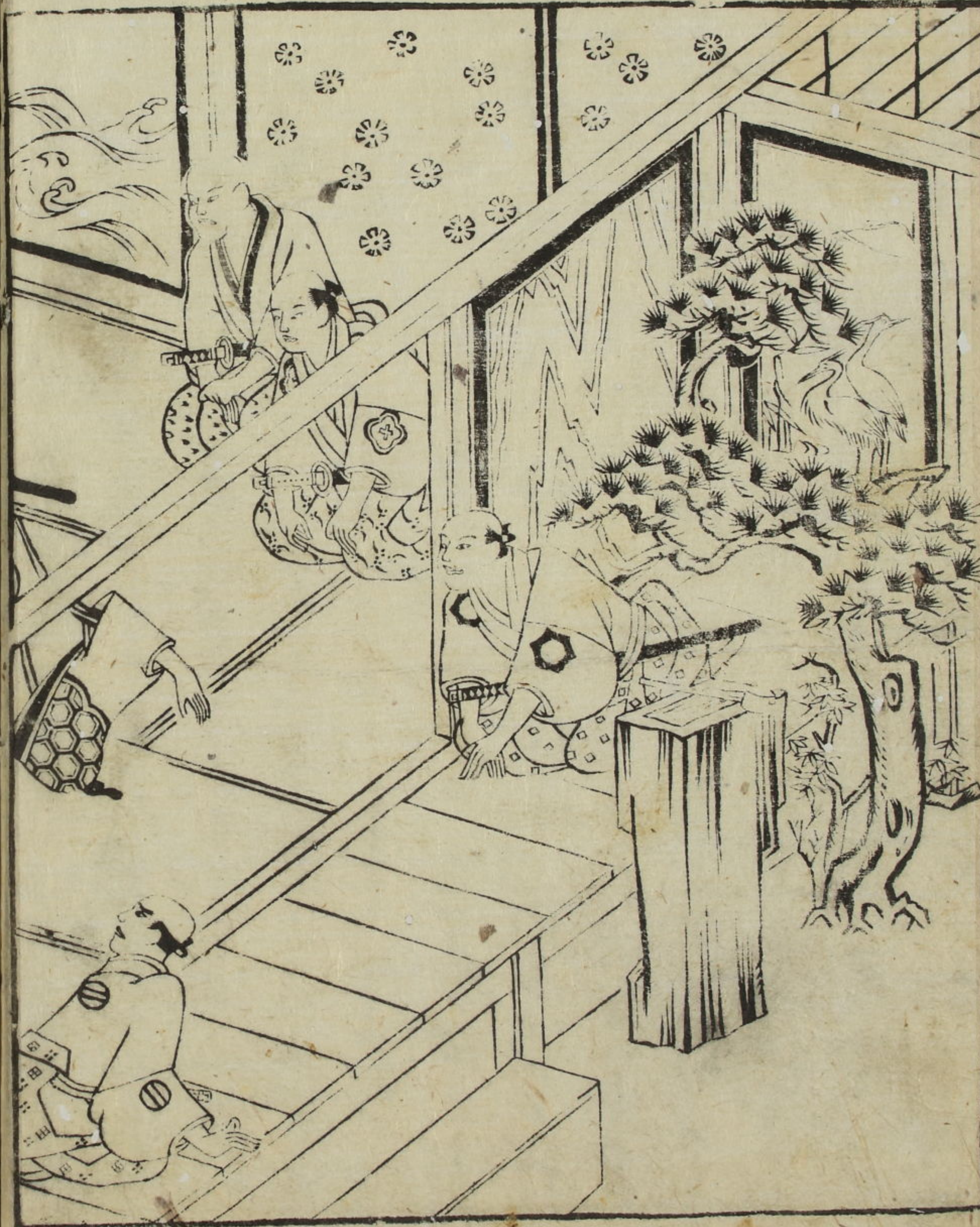
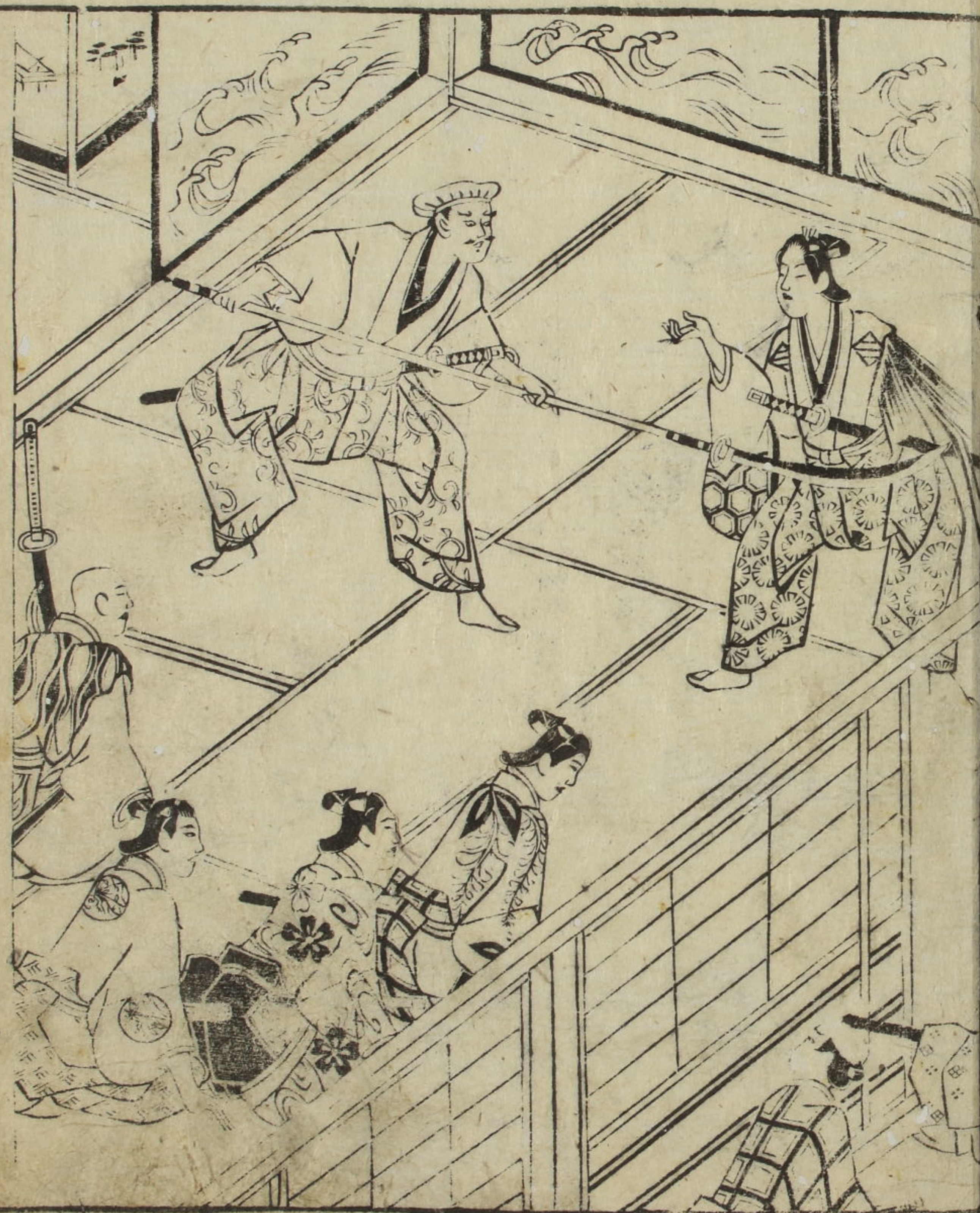
まふよ久初月のおどろ 髪は髪をさくさく為さし
—— 芙蓉の臉をり 唇のこころの梅すかきけるん
ぞー 身よわたりれお尻ひふゆー 靴の友ありぬ
次は夜との数す年立けはぬわかれわかれけり
て我は金銭捨けし 作せられきともうたへけり
きとたしはば 威風凛々たるわらふ 衣履の裁ふわ
らびやのくまもおそらくいふと極さ誰人よても我を
無分は身に寄し金銭して浮世のおりひてふ念者
と抱ておももがりてわらうともせだすうー世さあ
そはー 身無よんねー 魚ととりわけー 綱目半
の神ぞ降りな——の教もわられさせしぬひは
うらら根あかりしむおほくわされてわらうみ言風俗

平の御子。大書院の御孫。小女の御子。と料の御
 ところせり。小備が身の上。追付あやうく。奥しと。二六
 の志のてうせぬ。そそ小備がうらうらと。感へ。念
 るは。うら。まは。善徳。この身。新程のわ。う。板
 戸と。修理はる。う。わ。わ。わ。魏の文。侯。景
 業。と。我。家。の。子。息。何。れ。も。毒。の。味。も。な。ら。な。い。
 た。り。り。よ。師。經。と。い。ふ。志。願。今。も。つ。と。う。う。わ。ら
 と。あ。げ。あ。げ。文。侯。由。と。わ。わ。と。理。を。よ。う。と。れ。ら。う。前。發
 と。や。ま。ん。が。れ。な。は。と。也。し。又。小。備。が。武。勇。と。徳。人。
 見。せ。し。め。ん。う。う。也。も。由。重。く。と。わ。う。け。あ。ら。し。し。
 藤。義。和。の。て。い。あ。ひ。ん。孫。増。よ。な。り。よ。母。衣。大。衣。
 神。尾。刑。部。二。男。に。想。八。高。と。し。せ。り。者。つ。み。く。小。備

勿。慮。と。い。ふ。と。由。し。そ。な。げ。さ。あ。が。ひ。よ。い。と。わ。ら。え
 せ。附。言。と。為。年。し。書。て。十二。日。の。條。拂。ひ。出。者。例
 の。致。さ。り。の。事。も。あ。り。母。の。孫。へ。は。う。う。言。う
 葛。藤。よ。小。志。が。な。ま。り。て。想。八。高。と。入。て。出。次。者
 名。ま。て。あ。の。と。せ。龍。の。程。り。服。と。む。の。う。う。に
 て。自。由。小。戸。の。あ。け。う。て。車。の。着。せ。と。う。め。此。程。と
 が。り。と。あ。ひ。う。う。後。ハ。出。斬。の。と。思。ひ。し。と。ぞ。と。物。ハ。後
 思。入。と。思。ひ。う。う。に。わ。ら。し。む。す。び。の。事。と。う。う。す。び
 上。の。印。の。事。と。い。ふ。情。け。と。あ。ひ。て。な。と。す。と。思。く
 の。初。と。う。う。二。世。と。う。と。い。ふ。お。お。い。は。あ。と。わ。ら。う。せ
 々。出。物。よ。ら。う。と。素。性。の。筋。と。う。う。と。い。ふ。人。事。の
 う。う。と。う。け。お。さ。せ。と。い。ふ。時。小。つ。と。ん。出。袂。と。う。う。と

是のいふことなり。さういふ人殺しはえもわけていふ。
 我々のいふことなり。鬼來て。かきこらせし。
 うらや。うらや。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 うらや。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 ひて。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 といふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 と。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 といふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 ひな。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 おれ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 ちられ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

といふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 うらや。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 おれ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 といふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 ひな。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 おれ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 ちられ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。



後踏の月代

南大門の書つとどと鞍無より海先りふ
今去たまが華に清めたり鞍又右邊の
づより天下を是のいふとて身秘るあまの横
よ見あ名の面鏡に氣成らうへ入り小
わたり新れめりこと結云非中ともあ
く男と見れどもご三十やはな向ま
さ後さうり小髪えみらく上下
菊のふ雨紋糸糸の平帯者
いりさぬえ乃のこけらさ風俗
なご丸尾幼ち勇つとる昔
か人好さぬく文きてたま
こがれわけの日の由社の徳ら
月おなのの深さうく
少と無さかいたり次の日の
去日心さひ
て若井川の行は柳魁
ふのち中よむ村さう
よ小華て
りさうと咽筋
かお水由つ
さの金く
つまきく泡
つる物とく

こがれわけの日の由社の徳ら
月おなのの深さうく
少と無さかいたり次の日の
去日心さひ
て若井川の行は柳魁
ふのち中よむ村さう
よ小華て
りさうと咽筋
かお水由つ
さの金く
つまきく泡
つる物とく

まふとわご中はさくらびとま捨て着根つてひよゆり染
糸面自志の英男あして又中を産うくも奈の娘も
よと心の神女づらとともたけけしよと法痛くまひて
あまなり。と又いほむと我中も産どわひて其痛不
此の樂こそぐりやとほづやと此の心もひりよ。あハ秋
志守も。ゆふよ入日とも人の奥もとるひかりあはは
ハ二月十二日の秋乃家内内もる産も産いしよし
何ぬめいころきとの生約葛藤よまきまかりとよも袖を
ぬきんと産ふよらりそぞろよ。里のあ猪あやうと海
て藤の葉あよまきまの荊芒とらりめはらよ。角藤
てまきうとらり藤の無い路火らり。狐狼の野一ひ
あはあらは。ほ世の人の産く。産く。産場の産めら

ひる産成産の可大産とのふ置まてなりして。服
より挑地持く。なまのりのりこまをり小若中
りふりて先おまのりとの音の光りまてなとせり
汗立の乃たもどひよりさる。核産余雨の小あはら乃
産人のまきと介らるとさやと種もな。産ふよつとてま
産形町の末らりすじ門あたまで。内よ入るとん産け。皮
男わくと産りぬそれまその何乃ゆもほらぶらり
とま産石心産なうりりか。先二親よ。産のえりて
産の産のつと。品と産産のつと。産の産の産の産
産の挑地よを産んらに。産産の産の産の産の産の産
産の産のひ合せ。産の産の産の産の産の産の産の産
かりとまのつと。蠟燭とら産の産の産の産の産の産

形と若てんまうといふよりわかあえいあうせんあま
 のふとやそ。あまのいんどめれたそを。あま
 とのいそと。あまのいそとあまのいそと。あまのいそと
 のうちそ。あまのいそとあまのいそと。あまのいそと
 れい中であまのいそとあまのいそと。あまのいそと
 舞うと。あまのいそとあまのいそと。あまのいそと
 鐘がでてまう。あまのいそとあまのいそと。あまのいそと
 よあまんと。あまのいそとあまのいそと。あまのいそと
 尾もいそとあまのいそと。あまのいそとあまのいそと。あまのいそと
 の中もあまのいそと。あまのいそとあまのいそと。あまのいそと
 一人のあまのいそと。あまのいそとあまのいそと。あまのいそと
 のあまのいそと。あまのいそとあまのいそと。あまのいそと



めさずやうがぎごころけそなげうせ。後お入とわげそ
 平に事阿わまりの阿刺りう玉あのごとく。やしく
 去の目も新造く毎戸とさひ。火宅の車のまき
 けらりさ。うき浮世とらかりひあぐ。びりわおのこ
 阿かろく人て物し。年十九自の死おの持藤とそ
 の速おあつと。おの御とぬさそ。んえりさ。とく人
 よ。秘とのびと。お。死かひて。自書と。とら。我しを
 とく。死おぐ。さ。力なり。子細の。お。髪。さ。の。阿。が。せ
 わまりの念法。な。紙。年。と。け。そ。も。後。ま。お。は。こ。ま
 ひと。も。あ。ひ。し。よ。び。情。を。さ。り。な。阿。が。年。と。川。く。く
 て。見。と。あ。人。お。お。死。は。の。阿。世。に。死。わ。ひ。て。も。死。も
 向。は。く。も。な。し。我。お。り。の。命。な。る。人。よ。め。一。言。背。に

す。お。く。い。お。あ。い。も。を。な。り。と。ぬ。ご。こ。を。ご。し。な。り。と。て
 も。お。く。こ。お。は。り。り。と。ら。の。お。ま。お。と。か。し。こ。る。と。ま
 かなれ。も。お。を。ぬ。じ。し。と。阿。り。も。捨。く。あ。ん。や
 の。お。ま。お。と。極。も。年。法。を。も。お。く。ぬ。極。極。の。お
 こ。つ。し。そ。の。し。か。り。我。一。極。も。く。さ。ぬ。先。の
 物。さ。の。是。ま。ご。の。病。命。と。お。り。ひ。切。と。な。阿。極
 く。最。理。法。つ。若。く。と。め。け。ま。ば。さ。と。世。も
 至。極。し。て。自。害。と。お。り。ひ。と。ま。り。と。の。う。阿。い
 と。阿。さ。れ。勤。お。あ。の。阿。と。か。り。お。か。り。の。く。それ。が
 一。と。熱。病。の。ら。や。も。な。し。と。阿。後。わ。さ。お。は。ご。ん。せ
 阿。の。い。それ。ま。く。も。な。し。阿。後。わ。さ。お。は。ご。ん。せ
 と。く。の。お。ま。お。と。は。さ。れ。く。び。是。非。けん。此

東乃伽羅極

藤咲し多岐野もびり〜ふゆらふらふら〜
 もとくひなりとせふたふらふら〜
 無振舞の長持の影人の影の〜
 肉くおもふ心おかし〜
 らんほくお守のひり〜
 念志のわりそふよ面影よま〜
 幕のうらふらと老女あ〜
 さぬと呼ぶあふら〜
 だれ〜
 けと〜

葉屋のありけり切へのひの〜
 て一柱のうらふら〜
 ぬのちれは袖白菊よ〜
 かりぬら袖ゆ〜
 とと調へ〜
 本もあら〜
 ぬ〜
 けり〜
 娘〜
 奴作〜

て。みだらぐらひもりはのりらつて。くちらはまじりて。一
 倍のう。びわりのなはと。十助の子の十。まじりて。
 我く。おまじりて。うりて。うりて。うりて。
 小もあつて。いひさ。いよ。毛貴のり。ひよ。あじりて。や
 てなり。と。まじりて。数百人の。おまじりて。おまじりて。
 毛。徳人の。情。あつて。いひさ。いよ。毛貴のり。ひよ。あじりて。
 見え。わ。わ。わ。ぬ。ゆ。ぬ。ぎ。ぎ。今。の。男。い。か。い。つ。う。い。ん
 と。お。り。つ。て。あ。い。く。その。念。は。あ。つ。て。と。熾。よ。あ。つ。て。
 行。て。乳。乳。の。眼。ぎ。い。小。眼。よ。も。網。の。らん。と。つ。て。
 母。抱。の。精。と。う。つ。て。お。つ。ま。げ。ん。わ。る。て。を。
 つ。ま。げ。ん。う。つ。て。乳。ま。の。せ。う。の。娘。今。世。に。捨。て。す。う
 づ。つ。と。つ。との。縁。人。と。う。び。り。と。つ。て。お。り。つ。て。を。

る。う。と。つ。て。わ。ら。い。ぬ。の。あ。つ。ま。り。時。是。れ。に。休。む。
 息。院。の。足。傳。信。と。精。と。檀。瓦。わ。ら。い。ぬ。い。の。い。ひ。さ。
 湯。杖。の。も。わ。ら。い。け。ぬ。加。持。と。う。つ。て。い。か。ん。の
 お。ま。じ。り。十。八。年。に。入。聲。して。二十。八。年。と。年。三十
 余。も。う。く。屋。傳。の。な。り。と。う。つ。て。と。う。げ。ぬ。躰。踏。が。あ。つ。ぬ
 天。神。よ。丈。婦。節。つ。て。その。尸。子。あ。つ。ぬ。女。の。あ。つ。ぬ。神
 女。の。紅。梅。の。精。と。う。ら。ひ。ら。い。ぬ。あ。ん。の。あ。ん。と。一。筋
 あり。つ。て。胎。肉。よ。あ。つ。と。う。つ。て。あ。け。の。日。より。あ
 梅。と。う。ら。ひ。ら。い。ぬ。月。日。と。う。つ。て。あ。つ。ぬ。あ。つ。ぬ。
 女。の。あ。つ。ぬ。あ。つ。ぬ。あ。つ。ぬ。あ。つ。ぬ。あ。つ。ぬ。あ。つ。ぬ。
 の。あ。つ。ぬ。あ。つ。ぬ。あ。つ。ぬ。あ。つ。ぬ。あ。つ。ぬ。あ。つ。ぬ。
 一。又。十三。歳。の。時。夏。の。節。の。後。お。り。つ。て。あ。つ。ぬ。あ。つ。ぬ。

おまを怖じ無き者のういよ作らぬ程のそ
 ろりう方のとそそをいん乱さけいうくの横
 ぬくううううも極さうもつりくううれも次
 ぶりの物勝たの町ちせんども所いさう大
 形のむぎりの浮世と極ち極世とぬもせ早極
 ううんと骨の無形と極何うう極と我と
 びげてうけやばおひんめ白のめ白の何うう
 ちと極ううううはれ是極よ極うううう
 もたううううううううううのうう極
 うううううううううううううううう
 今いそい初う極ううと極れハ第九島も極
 十うう自極のうううう我者極うううう



